

令和3年度 第1回 学校運営協議会	
日時：令和3年5月25日（火）	15：30～16：10
出席者：佐藤豊、渡邊道子、北瀬淳子、岡田隆、市川慎二、梶田菜穂子、広瀬邦彦、長澤利恵子、桐谷鋼哉	
○開会	
副校長：開会挨拶、資料の確認	
○委員帰属	
○校長挨拶	
校長：1年間よろしくお願いします。私自身旭高校の6期生であり、また教員としてもお世話になりました。昨年度グランドデザインを整理したので、今年度は具現化していくための仕掛け作り、試みをしていく年だと思っています。地域の教育力を学校の中に取り入れていきたいと考えているので、皆様方の忌憚のない意見や子供が地域に関わっていける支援をお願いします。現在、子供たちは落ち着いて生活をしています。明後日には体育大会が控えている。昨年は行事がなくなっているという中、今年はなんとか行事ができています。今年1年は、感染症対策をしながらできるだけやっていくつもりなので、ご協力をお願いします。また、今年度は1年生にパラリンピックに選出された生徒がいます。	
田中：日向楓という生徒です。日本新記録を4つ更新しました。選考の結果、50mバタフライでパラリンピックに出場することになりました。4月に比べても少しずつ変化が見られます。学校内外でのご支援をよろしくお願いします。	
校長：インクルーシブな学校づくりとして、個性として学校の仲間と考え、できることを学校として提供していきたい。前向きに、支援していきたいと思っています。	
○委員紹介	
○会長・副会長選出	
副校長：会長立候補いますか？渡邊さんはどうですか？	
渡邊：不安ですが、よろしくお願いします。	
副校長：続きまして、副会長に立候補の方いらっしゃいますか？梶田さんいかがですか？	
梶田：よろしくお願いします。	
副校長：会長、副会長、よろしくお願いします。	
○協議	
副校長：ではまず、管理運営グループからお願いします。	

<p>管理運営：教育環境の整備を充実させることを、1年間の目標としています。コロナ禍なので、十分感染症対策しながら実施していきたい。また、ICTの利用だが、前任校ではICT機器が充実しているため、子供はそれを使いながら授業をおこなっています。この辺は機器の充実を一層図りながら、主体的に学ぶ学習保障を整えていくために積極的に普及を働きかけていきたいと考えます。</p>
<p>副校長：続きまして、教務グループをお願いします。</p>
<p>教務：4年間の目標として、魅力ある教育課程の編成・運用・改善と授業改善について設定しています。カリキュラム編成は、教育課程編成委員会を中心に検討中。また授業改善ですが、アンケート結果を見ていただくと、昨年度に比べ教員も生徒も主体的に取り組んでいる傾向にあります。しかしそこに当てはまらない生徒もいるので、今年度も引き続き授業改善に取り組んでいく予定です。今年度は「チャレンジできる人」をテーマにし、自分の1つ上のレベルを目指します。何ができ、寄与できるのか。知識の詰め込みではなく、これからの社会を生き抜く力を自分で身につけていき、リスペクトを持った環境で取り組んでほしいという方向で考えています。</p>
<p>副校長：続きまして、生活指導グループをお願いします。</p>
<p>生活指導：望ましい生活習慣をつけることを、1年間の目標としています。挨拶ができることについては、いい評判を受けています。いじめアンケートに関しては、挨拶にかかわるアンケートも加え、工夫をしておこなっている。5割以上の良い回答を得られることを目指している。遅刻に関しては、昨年大幅改善したので、持続させていきたいと考えます。</p>
<p>副校長：続きまして、生徒支援グループをお願いします。</p>
<p>生徒支援：生徒主体の行事運営の実施を、1年間の目標としている。イベント中止の中で、生徒がやりたい行事を開催してあげたいと思っています。ただ開催するのではなく、自分たちで感染症対策を講じて、考えさせながら、成功をさせたい。学校の校訓が自主自律なので、生徒主体でできる指導をおこなっていきたいと考えています。</p>
<p>進路：4年間の目標として、学習意欲に結びつけるキャリア教育を展開し、ライフプランの実現ができるようなキャリアデザイン能力を身に付けさせることを挙げています。その手段としてAGE28の取り組みがあります。28歳のときにどんな人になりたいか、どんな人生を送りたいか、ライフプランを考えさせ、そ</p>

<p>してそのプランを生徒がどう実現させるか。生徒それぞれが考えられるように、進路グループでどのようなキャリア教育をおこなうかを話しています。</p>
<p>グランドデザインの「チャレンジできる人」、「学び続ける人」を育てる意識を持っています。ICT環境は整いつつあります。デジタル化に向けて強く動かしていかないとはいけません。ICT機器を使って、生徒が家庭学習に取り組むことができるようにしたいと考えます。本人の学習に対する意志も大事ですが、学習させる家族も大切だと考える。生徒を支える家族と連携が取れるようにしたいと思います。</p>
<p>広報：広報グループとしては、学校運営協議会の充実から地域と協働連携を図り、地域の力を学校運営に生かすこと、地域と学校がともに生徒を育てる取り組みを推進していきたいと考えています。学校運営協議会の内容が今までは校内で共有できていないこともありましたが、議事録を職員間で共有し、学校運営に生かしていく所存です。具体的な方策としては、地域の力や運営協議会の力を借りて生徒の学びにつながるようにしていくことを考えています。また、学校の情報ホームページだけでなく、学校説明会などを通して迅速に発信していきます。ホームページについては、円滑に更新されるように各グループや各部活と連携をとっています。広報グループが行う業務については、生徒が活躍する写真や映像、動画などを通して生徒の活躍を皆さんに見て頂く機会を作ります。部活動の成果、生徒の良さを知っていただきたいと思います。学校説明会では、生徒主体の学校説明会を実施したいと考えています。</p>
<p>副校長：各グループの目標設定について話がありましたが、質問はありませんか。</p>
<p>校長：目標設定について、話をお一人ずつから伺います。</p>
<p>渡邊：各グループ、取り組みの改善が図られているのではないかと思う。個人的には学習保障に興味があります。自立型学習者を育てることをメインとした仕事の他、ホームページや、ウェブマーケティングの仕事をしている。そのような面で何か助けられれば良いと感じています。生活指導グループのいじめアンケートについては、いじめだけでなく挨拶というプラスの内容を取り入れられていて良いと感じました。</p>
<p>梶田：ホームページが画期的に変わったと感じました。今までは、部活動の実績が最新のものではなく、前の実績が掲載されていましたが、内容も最新のものが掲載されています。最近はスマートフォンから情報を得ることが多いため、ホームページが頻繁に更新されるのは良いことだと思います。また、先生と生徒がコミュニケーションを取って、風紀委員会でポップを作成していました。先生方の声掛けは子どもたちの安心や安全につながります。</p>

市川：ホームページを通して魅力を伝えるのは良いことだと思います。遅刻についてはどんなふうに指導したのかを教えてください。以前、地域との連携について、卒業講話を実施し、10名程度来ており、充実していました。新型コロナウイルスのこともありますが、検討してほしいと思います。
佐藤：初めてなので客観的に聞いていました。他校でも参加しましたが、旭高校は、先生方が課題に的確に向かい合っていると感じます。ランドデザインは学習指導要領からずれていません。そのような中で、「旭でこそ学ぶ意味がある」、「旭だからこそ体験できた」ということを特徴づけて、出していくのが肝になるのではないのでしょうか。県立高校はたくさんあって、旭高校に入ってワクワク学ぶために、旭高校の特徴を出していくことが大切だと考えます。ランドデザインにある「信頼される人」、「学び続ける人」というのは、どういうふう to 実現させるのでしょうか。学校教育活動全体の中でおこなうのでしょうか、入学後、小さいものから少しずつ実施していき、「旭高校に入学したからこういう事ができた」というプログラムや目標があれば実現できるのではないのでしょうか。パラリンピック代表の件も、生徒個人の取り組みだが参考になる。「共生社会」について、リアルな体験をさせる。そのようなことで、子供の成長につながります。新カリキュラムの決定につなげてもらえれば良いと思います。
北瀬：地域連携のところで、「地域共生社会」や、「地域で支えていく」ことに関して、地域も真剣に考えています。国や市、地域それぞれで連携を考える中で、地区の中でも学校運営協議会の話が出ます。情報を地域にも伝える事が大事なのではないか。青少年指導員、家庭防災、さまざまな部分で、学校を巻き込み地域を考えていくという話が出ています。自治会長からは、福祉関係の人材育成やICT導入の話が出ています。出向いては難しいがWi-Fiを使って、幼稚園や老人ホーム等で自閉症で視力障害の子の音楽を届けるということを実施し、つながっています。視力障害、自閉症、発達障害の人でも音楽ができるということ伝えることで、素晴らしさや「共生社会」の理解につながれば良いと考えています。
岡田：地域のつながりを大切にしていきたいと考えます。今日学校に来て先生方の話を聞いてみると、学校の先生達もこういう事を考えて取り組んでいると感心しました。社会人になったときの事を考えて取り組んでいるのであれば、ロータリーとして協力できることがあるのではないかと。学校で話をする事は、ロータリークラブで働く社員の成長につながります。新型コロナウイルスの中大変ですが、協力できればと思います。
校長：ランドデザインにある、社会で必要とされる人材を育成するためにどうするか。文科省では「GIGA スクール構想の実現」で、一人一台端末の積極的な利用活

<p>用が勧められています。学校もできることをやっていかなければなりません。今年一年で準備をしていかないといけません。昔は特徴がないのが普通科の学校でした。</p>
<p>今は、この学校で何が経験できるのか、という特徴を作らないといけません。旭高校というのは昔から地域との関わりが強い。周囲にはゴミ捨て場みたいなのところもありましたが、横浜市、旭高校、法人と協力してきれいにしました。その場所をきれいに維持するためにどうすればよいのかを生徒自身で考え、集約して発表しました。小さな体験でも地域と関わることはたくさんできます。学習支援の手伝い、三ツ境養護学校との関わりなど、神奈川共生計画のためにどんどんアピールしていいのではないかと考えます。前任校でトライしたことを参考に、子どもたちのためになにかできるのではないかと考えました。いろいろなことを企画してトライしたい。その一つの取組みとして、旭アワードを考えました。先日、本校の生徒が人命救助をしました。学校運営協議会で表彰することで、自尊心を高めることに繋がるのではないかと考えます。本人たちは善行で、人助けをしたという自尊心につながりました。今年から旭高校でも取り組んでみたいと考えています。そのような場面を作って、生徒を表彰したいと考えます。自分以外の誰かのために貢献した生徒、地域貢献活動を積極的におこなった生徒、学校内外の主體的な活動で成果を認められた生徒などをアピールするということで、学校として取り組んでみたいと考えます。</p>
<p>副校長：旭アワードについて質問ありませんか。</p>
<p>佐藤：審査のところに生徒の視点が入るといいのではないかと思います。ニュージーランドでこのような取り組みをやっており、教員が善い行いを見つけたらすぐ評価していました。そうすると街自体が変わっていったという事実があります。生徒のモチベーションにも繋がります。ICT化が進むと簡単にできるのではないのでしょうか。</p>
<p>副校長：他になにか意見や質問ありますか。なければ、閉会します。</p>